カルシウム・コバルト酸化物熱電材料の 結晶相と熱電特性におよぼす焼成条件の影響 Effect of sintering condition on crystal phase and thermoelectric characteristic of calcium - cobalt oxide thermoelectric materials

[°]鬼頭 知希¹,奥山 剛史¹,小川 清²,田橋 正浩¹,高橋 誠¹,後藤 英雄¹ (1.中部大学、2.オザワ科学株式会社)

^oTomoki Kito¹, Tsuyoshi Okuyama¹, Kiyoshi Ogawa², Masahiro Tahashi¹, Makoto Takahashi¹, Hideo Goto¹ (1.Chubu Univ., 2.Ozawa Science Co., Ltd.)

E-mail: ee11018-1755@sti.chubu.ac.jp

1. 研究目的

現在研究が進められているカルシウム・コバルト酸化 物熱電材料について、焼成温度および焼成雰囲気中の酸 素分圧の影響によって得られる結晶相が変化すること が報告されているが⁽¹⁾、相変態条件の境界や熱電特性の 影響については報告がない。本報ではカルシウム・コバ ルト酸化物の結晶相と焼成条件、特に酸素分圧と焼成温 度の関係を明らかにするとともに、結晶の表面形態と熱 電特性に及ぼす影響について調べたので報告する。

2. 実験方法

原料には Ca(OH)₂ と Co₃O₄の粉末を用いた。これらを モル比で Ca:Co=3:4 となるように混合した。この混合粉 末を 0.7g 採取し、2kN の圧力で 7 分間圧縮成型すること で、直方体の試料を作製した。得られた試料を O₂ + N₂ の混合ガス中で、室温から 10K/min で焼成温度まで昇温 し、24 時間焼成した。焼成温度は 1073K~1373K、雰囲 気の酸素分圧は 0.1atm~1.0atm の間で変化させた。結晶 相の構造解析には X 線回折装置を、表面形態の観察には 走査型電子顕微鏡を、電気伝導率およびゼーベック係数 の測定には熱電特性測定装置を用いた。

3. 実験結果

Fig. 1 に p(O₂)=0.2atm, 1.0atm で焼成した試料の X 線回 折ピークを示す。p(O₂)=0.2atm では焼成温度 1073K~ 1193K の範囲で Ca₃Co₄O₉ のみが得られたが、1273K ま で昇温すると Ca₃Co₄O₉ が分解し、Ca₃Co₂O₆ が得られ、 1373K まで昇温するとさらに分解し、CaO、Ca₃O₄、CoO が得られた。一方 p(O₂)=1.0atm では焼成温度にかかわら ず Ca₃Co₄O₉ 単相が得られた。

Fig. 2 に $p(O_2)=0.2atm$ および $p(O_2)=1.0atm$ で焼成した 試料の表面形態を示す。1073K で焼成した試料ではいず れの酸素分圧においても 1 μ m 程の微細な結晶が見られ た。1273K においては $p(O_2)=0.2atm$ では六方晶の $Ca_3Co_2O_6$ が見られ、 $p(O_2)=1.0$ では層状の $Ca_3Co_4O_9$ が見 られた。

カルシウム・コバルト酸化物の相図、焼成条件がおよ ぼす結晶形態と熱電特性への影響の詳細については当 日報告する。



Fig. 1 X-ray diffraction patterns of samples sintered at various temperatures. (\bullet : Ca₃Co₄O₉, \blacktriangle : Ca₃Co₂O₆, \Box : CoO, \diamondsuit : Co₃O₄, ∇ : CaO)





(b) p(O₂)=0.2atm @ 1273K





(c) p(O₂)=1.0atm @ 1073K
(d) p(O₂)=1.0atm @ 1273K
Fig. 2 Surface morphologies of samples sintered at various conditions.

と 献

Sintering Temperature Dependence of Thermoelectric Performance and Crystal Phase of Calcium Oxides, M. Tahashi, T. Tanimoto, H. Goto, M. Takahashi, T. Ido: American Ceramic Society, vol.93, No.10, pp.3046-3048 (2010)